



【あなたのために備えられた神の御国に入る道】

聖書本文: マタイの福音書25章31節-46節・暗唱聖句: マタイの福音書7章21節

説教者: 鄭南哲 牧師
(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰家族のみなさん！先週一週間台風の中で平安のうちに無事過ごせられましたか。季節の代わり目の最近、朝晩大分涼くなっていますが、ぜひみなさんのお体も大切にしてくださいと願います。今日はマタイの福音書25章に書かれている3つのたとえ話(ともしびは備えたが油を十分に備えなかった愚かな娘たちと両方とも備えた賢い娘たちのたとえ話、主人から各5、2、1タラントを預かったしもべたちのたとえ話)の最後である羊と山羊のたとえ話の内容について一緒に学びつつ考えて見たいと思います。

10人の娘たちの例えば話は神の御国を意味する花婿の婚礼の宴会に入れる人は招待されてただ待っている事で宴会に全部入れることではないことが分かりました。ともしびである信仰の形だけ準備された人は神の御国に入れる事が許されず、ともしびと共に信仰の内容である十分な油をちゃんと備えなければならない事を教えられました。目に見える信仰の形も必要ですが、信仰の準備がはっきり出来ていない人は神の御国には入れない事を我々は教えられました。

先週のタラントのたとえ話の内容を通してそれぞれの能力に応じてしも主人のしもべたちにすべてが主人の尊い物を預けられたように、我々も主なるイエスキリストからすべてを預かっている者たちであることを、そして、しもべたちが知らないうちに主人が帰って来て清算されたように、我々にも主の御前に立て必ず清算の時が待っている事を教えられました。その時、同じ主人のしもべたちであってもみんながほめられたわけではなかった事を知りました。ですから、主なる神からそれぞれ今預かっている健康であれ、時間であれ、物質であれ、才能であれ主人が喜ばれ、望まれる通りに従って、変わらず誠実に、忠実に用いるべきである事も教えられました。そうすることが出来るためには主人への信頼と確かな信仰と感謝がなければできない事も共にこれから覚えて生きたいと思えます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

私たちはイエス様のたとえ話を通して今自分は神様の御心になかった信仰であり、その信仰に基づく生活だったのか、そして、神の御国に入れる信仰の供えが今ちゃんと出来ているのか自分自身を探る事ができます。イエス様のたとえ話は始終(しじゅう)、私たちの信仰の本質と核心を確かめつつ強め、神の御国に入れるようにと強調されています。

<本文の内容>

本日、私たちが探ってみたいこの‘羊と山羊のたとえ話’は終末を備えるためのマタイの福音書25章の三つ目最後の御教えであります。このたとえ話のテーマは“完全なる神の御国に入れる者は最も小さい者たちの1人のために仕える者である”と教えて下さっています。まず、今日のたとえ話の目立つ特徴はイエスキリストの再臨の時の状況が記されていることです。

マタイの福音書25章31節をどなたが読んでいただけますでしょうか。

“人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人の子は その栄光の位に着きます。”(31節)

今日この‘羊と山羊のたとえ話’は始まりが人の子、つまりイエスキリストが再び来られる時、栄光を帯(お)びて、すべての御使いたちを伴って来られる御姿から始まります。ここで“栄光の位(くらい、thronos)”というのは王座であり、すべての王であられるイエスキリストが王権を行使(こうし)されるために王座に着くという意味です。イエスキリストが再び来られ、この世を裁かれる時、その対象において例外になる人はだれもいません。32節に“そして、すべての国々の民が、その御前に集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け”ここで‘すべての国々の民’が神の裁きの対象だと言われています。国、人種、年、性別を越えてあらゆる人類が神の裁きの対象になるということが分かります。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

イエス様がいつ、再び来られるかはだれも知りません。なのでこの世の終りはだれも知りません。ただ父なる神のみがご存知でしょう。しかし、確かな事実は一度来られ、天に上られたイエス様は必ず再び来られる、そしてその時がこの世の終りであることを教えて下さっています。そして、神様の裁きはかならず行われます。一人も残らず、神の審判台に上がるということです。イエス様が始めに2015年前にこの世に来られた時には、ご自分を無にして、神のあり方を捨てて少女マリヤを通して馬小屋の飼いやおけで布に包まれた赤ん坊姿を持ってお生まれなり、謙遜な人間と同じようにまで低くされましたが、再び来られる再臨の時のイエスキリストは威厳と栄光の中すべての王であり、裁き主として来られる事を今日の聖書の本文ははっきり表し、約束して下さいます。

最初人たちは終末の時、何が起こるのか、どうなるのかあまり興味を持ちませんでしたが、今日は世界あちこちから今まで無かった気候の温暖化や気象異変とか災害、災難、災いなどで人はもしかしてこの世の何か終わりが実際に来るのではないかと不安になっているのは確かです。それを素材(そざい)したいろんな映画や放送、本などや世の終りに対する科学的予想案が出されているため、以前哲学者たちやさまざまな宗教などで主張や預言にもよく関心を示したりします。しかし、世の終りについて一番詳しく、正しく教えてくれている神の御言葉なる聖書に対してはそれほど深く言及されてないことはとても残念であります。聖書はそれについて明確に示してくれます。

今日の本文に戻りまして、この世を裁くために栄光の中、イエス様が再臨される時、主はすべての国々の民を集め、羊飼いが羊と山羊を分けるように彼らをより分けるとおっしゃっています。羊飼いが檻(おり)に入れる時、表では似てる羊と山羊とをちゃんと分けて入れるように、裁きの時にも永遠の命を持って入れる天国に入れる者と永遠の死である地獄に入れる者を見分けられると書かれています。

イエス様がどうして羊と山羊を例えたのか。今日我々は疑問に思われるかも知れませんが、当時農耕(のうこう)と牧畜(ぼくちく)の社会で生活していたイスラエルの人々にはととても分かりやすいたとえ話ではないでしょうか。そして、これと似た内容が旧約聖書エゼキエル書34章17-19節にも出ていますので、イエス様のお話を聞いていた人々は羊と山羊を分けておりに入れるように、神の国にも入れる者と地獄に入る者を分ける内容である事をよく理解したと思います。それでは、まず、右側には羊を、左側には山羊を分けられたようにはたしてどんな基準で、イエスキリストの再臨の時には見分けられるのかを知る事がとても重要で大切ではないでしょうか。

<右側の神の御国に入れるかどうかその神の基準>

みなさん、今日の本文を通して神はどんな基準で見分けて下さると思われませんか。それを一生覚える事により、我々はこれからの生活と残りの人生をどのように送れば良いのか改めて決心する事が主の御前でできると信じます。

まず、神の御国に入れる右の羊側に立っていた人々の神の基準は何でしたか。

本文34～36節をご覧ください。

“そうして、王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渴いていたとき、わたしに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、わたしが裸のとき、わたしに 着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』”

このような主のお言葉に対して右側にいる人たちは“私たちがいつそんなことをしたのですか。”と尋ねます。すると、主からは40節で“すると、王は彼らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』”とおっしゃいました。

愛するみなさん、ここで‘最も小さい者たち’はだれを言うのでしょうか。彼らは飢えている者、のどが渴いた者、自分の住まいがない旅人、病気にかかった人、そして罪を犯し、牢に入れられた者などだと言えるでしょう。これをまとめて見ると、このような人々たちはみんなだれかの愛の仕えと助けが必要としている全ての人たちである事が分かります。

こういうわけで初代教会の有名な神学者たちであったテトリアンとクレメントという方はこの御言葉に対して“あなたがたが助けを必要としている兄弟姉妹を見る時、それはあなたの前に立てておられる主を見ている時だ！”と主張したのはとても正しいと思います。

ですから、イエス様と同一されているこの‘もっとも小さい者たち’というのはクリスチャンを含めあらゆる貧しい者、弱い者、疎外されて誰かの愛の仕えと助けが必要な状態にいる人たちである事が分かります。

主の右側に立てられた人たちはそのような人々のために、クリスチャンとして当たり前の事だったかのようにいつも自分の利益など計算せず惜しみなく(たった一度とかたまにやっていた見たいな感じではありません)犠牲を払って愛をもって仕える人生を送ったので、裁きの時に却って主にほめられながら、神の御国に入れたのではありませんか。

ところが、山羊の左側の永遠の死である地獄に入れる者たちはどうでしたか。

41節では、“のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火にはいれ。”とイエスキリストから厳しく語りながら、その理由について42-43節はこう書かれています。“おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる物をくれず、渴いていたときにも飲ませず、わたしが旅人であったときにも泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のときや牢にいたときにもたずねてくれなかった。”と指摘されました。(その人たちは分け与える物がなかったようには見えません。すべての物の主人は神様ではなく、まるで自分かのように、すべての事に相変わらず自分が主人となって、自己中心的に自分のためにしか使わなかった人たち、まるで、主から十分な物を預かっていても、主人の御言葉とか喜ばれる御心に従って使うべきなのに、自分のためにしか使わなかった者たちではないでしょうか。)その時、地獄に入ることに主から決められた者たちが44節に主に訴えます。

“主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渴き、旅をし、裸であり、病気をし、牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。”ここで‘世話をする’という言葉はギリシャ語で‘ディアコネオ’と言って‘奉仕する、仕える’という意味の言葉であります。

この意味として見ると、彼らが地獄に落ちてしまった理由は助けが必要な人々に助けられなかった、仕えられなかったからである事が分かります。

<イエスキリストを救い主として信じ救われた人たちの信仰の真の実>

今日の聖書の本文の内容では、これが主イエスキリストの再臨の時、人々を裁かれる物指(さ)でした。もっとも小さい者に仕える、奉仕する姿勢と行い、主の御名によって仕える行為が大切であることを示されています。なぜなら、この世でもっとも小さい者に仕える事が神の永遠の御国に入れるか、それとも地獄に落ちて永遠の罰を受けるかが決められるからです。

ところが、みなさん、こうなると、どこかおかしいと思われませんか。今日の御言葉は今まで聖書がずっと教え続けて来ている内容は信仰により永遠の命を得、救われる(ヨハネ3:16-18)を教えて下さっているのにも関わらず、ここではまるで全然違う内容つまり、この世で人の奉仕の生活によって天国行きが決まるかのように教えて下さっているのではないのでしょうか。

私たちは今まで人間の行為自体はそれが努力であれ、条件であれ、神の御国である天国に入れる条件にはなれないと教わったのではないのでしょうか。今日の御言葉は単なる人の善行、良い行いによる天国に入れる条件だと教えている事ではない事を注意しなければなりません。

みなさん、よくご存知のエペソ人への手紙2:8-9節を何方が読んで頂けますでしょうか。

“あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。

9行ないによるものではありません。だれも誇ることはないためです。”

この御言葉のように、人間の行いその自体では救われ、天国に入れることには決してなりません。

そしたら、みなさん、今日の本文をどう理解するべきでしょうか。

今日のイエスキリストが語り教えられた、今日のたとえ話は天国に入れるための条件としての愛の仕えと助け、犠牲を払う奉仕の行いではなく、神の御国に入れる真の信仰を持っている人々について来る結果、真の信仰を持って信じている人々が結ばれるべき行いの実、その信仰の結果として見、理解すべきであります。

イエス様はこの点についてすでにマタイの福音書7:17-21節で言われました。

“17同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実を結びます。18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が良い実をならせることもできません。19 良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼らを見分けることができるのです。21 わたしに向かって、『主よ、主よ。』と言う者がみな天の御国にはいるので

はなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。”

そして、新約聖書ヤコブの手紙2章14-17節も一緒に読んで見ましょう。

“私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行ないがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、16 あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさい。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。17 それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけでは、死んだものです。”

ジョンカルベンという偉大な神学者は彼が書いた「キリスト教綱要(こうよう)」にて次のように適切な理解をさせてくれます。

“キリストはすべての人々に自分たちの行為に従って報いて下さる。なぜなら、各人は自分の行為によって自分がまことの信者であるか、未信者であるかを証明されるからだ。”

ですから、今日の本文を通して得られる事実と言え、主イエスキリストによって永遠の命を得、神の御国、天国に入れるのは、唯一の自分の救い主としてイエスキリストを信じるのみで可能ですが、その信じる信仰が確かな信仰であるか、形だけの信仰、いつわりの信仰であるかはその信仰にふさわしく行いをもともなっているのかを通して確信できるということであります。

＜あなたもキリストを信じ、救われあなたのためにそなえられた神の御国を継ぐ者であるならば＞

主イエスキリストの御前でどれほど自分が惨めな罪人であるかをいつも主の御前で悟り、認めているのでしょうか。主イエスキリストの十字架の血潮による哀れみと罪赦しが無ければ自分が決して神の御国に入れる資格がないのに、何の条件付き無しで、ただ一方的な神の愛と恵みにより、信じるだけで自分が救われたならば、他の罪を犯したり、罪人たちに対して勝手に非難したり、裁こうと決してしません。自分も同じ罪人だからです。イエスキリストをまことに信じ、救われた人は、罪の中に苦しんだり、弱かったり、助けが必要な人が見れば、見放したり、無関心になりません。自分には何か大きな力や能力(のうりょく)はないですが、何とかその人と魂が助けられ、救われるように、イエスキリストの哀れみと愛を持って何の条件無しで、惜しみなく助け、仕え、分け与えようとしています。

なぜなら、自分が主から惜しまずに愛され、赦され、恵まれ、救われた事をすでに経験し、信じているからです。

イエスキリストを心から信じ、従う者たちは、なかなか難しいですが、絶えず自分と戦いつつ、悔い改めつつ、主にたよりながら、自己中心的なくせ変わりに、イエスキリストがそうなされたように、もっと他人中心に生きようとしています。

イエスキリストを信じる真のクリスチャンたちは、この世では疎外されて、弱くて、小さな1人のように見える人であっても、キリストの目からはご自身の命までその人を救うために惜しまずに捧げて下さった尊い命であり、主にあって救われるべき大切な存在として待遇します。そしてその尊い人生をも救われるように、キリストのように、キリストの愛を持って惜しみなく仕え、分け与えようとしています。1人のたましいでもキリストによって救われることを望まれる主の御心をよく知っているから使命として、喜んで従おうとします。

愛するクリスチャンブレイズチャーチのみなさん！今日の羊と山羊のたとえ話を通して、そして今回3回のマタイの福音書25章のイエスキリストのたとえ話を通して、我々は正直に、真剣に自分の信仰の状況を探り、自分が今日でも、救われ、神の永遠の御国に入れる良き備えが確実に出来ているのか確かめてほしいとそのメッセージを下さっています。みなさんはいかがでしょうか。

羊も山羊も遠くから見ると、面はとても似てます。よく見極める事ができませんが、大牧者なる主イエスキリストの御前ではすべてが現れます。何一つ隠す事も、偽る事も、言い訳するのもできません。生かされているこの地上で真の救い主なるイエスキリストをどう受け入れたのか、そして、その信仰によって神から預かったすべてのものをどう用いて来たのか神は今もすべてを見つめて知っておられます。そして、主の御前に立った時、どう用いたのか、どう行ったのかその信仰の本物であったのか、ただ形だけであったのか清算する時が待っています。

救いはイエスキリストを受け入れ信じる信仰によります。しかし、神はその信仰は真であるかどうかその信仰の告白だけではなく、行いを通して見せてほしいと望まれることを忘れないで、一生心に刻んで歩めるすべての神の家族となりますように祈ります。

愛するクリスチャンブレイズチャーチのみなさん！みなさんの周りを見て見て下さい。

霊的に飢え乾いている人たち、人生の真の意味も分からず、どちらに向かうべきかも知らずさまよい孤独で寂しく歩んでいる多くの人々、生きるのに疲れている多くの人々、人生の様々な問題や悩みの荷を覆って苦しんでいる人たち、何とか自分の限界や弱さを覚えながら真の神が本当にいるならば、何とか是非助けてほしいと助けの手を求めている多くの人たちがいるのではないのでしょうか。

実はそうだった小さな自分の存在さえもイエスキリストは見つめておられ、恵まれ信じられ、救われたのではないのでしょうか。愛するみなさん、その時、自分も思わぬ周りの人たちの愛の仕えと助けを通して自分が救われたので、小さな1人でも主にあって尊い存在としてその人生が救われ、変わるように何でも仕え、助けるべきではありませんか。

あなた様は本当にキリストを信じ、救われあなたのためにそなえられた神の御国を継ぐ者であるならば。。。

34節の御言葉主からみんな聞けますように祈ります。“王は、その右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。』”

愛するクリスチャンブレイズチャーチのみなさんはそうなりますように、そうなることを信じ主に感謝致します。アーメン！！！！